



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員総数……………884人

医師……………172人

コメディカル……………712人

【管理栄養士紹介登録数 49人】

平成23年8月20日現在

《目次》

- ◆「医薬品安定供給について」
田中 三広先生……………Page 1
- ◆研究会等の実施報告……………Page 2-3
- ◆研究会他・事務局からのお知らせ……………Page 3-4

「医薬品安定供給について」

当研究会評議員

青梅市立病院 薬剤部 田中 三広

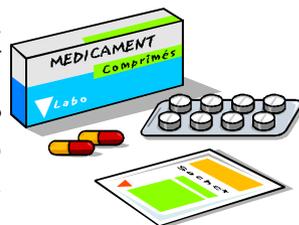
東日本大震災において被災された皆様・ご家族関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

東日本大震災直後より一部の医薬品が供給不足や停止となり、半年近く経った今も、未だに内服薬や輸液の供給不足は解消されていません。医薬品が製薬会社から医薬品問屋を経て医療機関等から患者さんに安定的に供給される体制が維持できなければ、患者さんのQOLが低下し、病状の悪化を招く危険性があります。そのため、災害時などの場合でも安定的な供給が求められます。

震災後、当院に初めに製薬会社から医薬品供給に関する情報が届いたのは週明けの月曜日、インスリンの供給状況でした。インスリンの供給には問題ないと連絡があり、まずは一安心しました。糖尿病治療薬の経口血糖降下薬の供給についても問題はありませんでした。

当院薬剤部では医薬品問屋より得た情報から医薬品の流通に問題があると思われる製薬会社の供給状況を確認しました。当院で大きな問題となったのは、甲状腺ホルモン剤、輸液製剤、液体経腸栄養剤でした。甲状腺ホルモン剤は、工場が被災し、生産の見通しがつかないとの報告を受け、処方投与日数を制限しました。輸液製剤は、工場から出荷はしたが、その積載車の所在がつかめない状況が続き、製薬会社の配送センターに納品されても計画停電で配送システムが使用できず配送に手間取り、更に、ガソリン不足で医薬品問屋の配送車にまで影響し、なかなか病院まで届かず危うく在庫切れを起こすところでした。液体経腸栄養剤は缶容器を製造・供給する工場が被災し供給停止となりましたが、薬剤師会と連携し、当院でピックアップした食品を代替えとして販売して頂けるよう手配できました。しかし、投与日数制限や食品への切り替えは患者さんに多大な負担をかけてしまう結果となってしまいました。

今回の震災の教訓から、医薬品の安定供給のために、迅速な医薬品供給情報の収集、医薬品の備蓄量の見直し、地域医療機関との連携などの検討が必要と考えます。また、製造工場の分散やジェネリック医薬品の複数化とシェアの拡大、電力供給停止時のシステム維持のためのバックアップ電源の確保などの対策を講じて頂きたいと思っています。



研究会等の実施報告

平成23年度 西東京糖尿病療養指導プログラム報告

平成23年7月10日（日）北里大学・薬学部にて開催されました。

第8回 西東京糖尿病教育看護研修会 当研究会評議員 武蔵村山病院 小柳 貴子

晴天に恵まれた中、「第8回 糖尿病教育看護研修会」が開催されました。毎年多くの参加を頂いている研修会ですが、今年度はさらに多くの看護職に参加していただき、熱気にあふれる研修会となりました。

午前の部は、「インスリン治療を再度理解してみよう」とテーマで東京女子医科大学糖尿病センターの内潟安子先生に講演していただきました。患者さんにとって毎日が不規則の連続であり、そんな生活にあわせてインスリンを自由に上手に使いこなせるようになること、その人の生活を尊重したインスリン注射をすることが基本であることをわかりやすくご教授いただきました。午後の部は、CSIIとCGMSについての取り扱い方を含めた活用方法と、実際に活用している施設の実践事例を多数紹介していただきました。また、最後に患者さんの生の声として看護師に望むことを患者会を代表して石井聖美さんから体験談を紹介していただき、私たち看護職の役割や課題についてそれぞれの胸に響く講演会となりました。実際に自施設では取り入れているCSIIとCGMSについては、参加者のみなさんに興味を持っていただけるのかと心配もありましたが、実際に手にとっていただくことでより身近に感じ取っていただき、多くの活発なご意見をいただくことができ、とても有意義な機会となりました。

西東京地区は全国的にも糖尿病チーム医療に熱心に取り組んでおり、LCDE認定制度などを活用して個人的にも学習意欲の高い方が多いのが特徴だと感じています。今回の熱気ある会場の皆さんの表情から、施設を越えた交流の場がさらに個々のモチベーションアップにつながったのではないかと感じられました。



第8回 西東京病態栄養研修会

当研究会評議員 多摩丘陵病院 原 純也

今回の病態栄養講習会は最近、話題にあがる「低炭水化物食」をテーマに掲げ、行いました。午前中は北里研究所病院糖尿病センターの山田悟先生より「糖尿病における低炭水化物食の意義」ということで、沢山の論文を詳細に解説いただくとともに、自病院で取り組んでいる低炭水化物食についてお話をいただきました。午後は糖尿病食品交換表編集委員長でもある杏林大学主任教授の石田均先生より、「今もう一度見直そう、糖尿病食事療法の基本」ということで、低炭水化物食への問題提起を行っていただくとともに、食事療法についての基本的概念を詳細にお話いただきました。



休憩をはさんだ後、深谷祥子先生（東京医科大学八王子医療センター）、深谷清先生（公立昭和病院）、内田せつ子先生（勝和会病院）と私より、低炭水化物食の問題点と有用であった症例などを提示していただき、今回のメインであるディベート「低炭水化物食の是非！～糖尿病における、炭水化物食の役割とその意味～」を植木彬夫先生の座長の下、行いました。ディベートには山田先生と朝比奈崇介先生（朝比奈クリニック）も壇上に上がっていただき、会場には石田先生も講演後、残っていただき活発な意見交換をすることができました。今後の低炭水化物食の取り組みついて、栄養士が患者さんの背景や日本の食文化もきちんと考慮しながら、考えていかなければならないと痛感させられたとても有意義な研修会でした。

研究会等の実施報告

第8回 西東京薬剤研修会

当研究会会員 くにたちウラン薬局 森 貴幸

第8回薬剤研修会は、「CGM（持続血糖モニター）」と「カーボカウント」をテーマに開催しました。

午前の部は「CGMからみた糖尿病治療の現状」を東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科の西村理明先生にご講演頂きました。今まで見てきた血糖値は点でしかなく上昇していく点なのか、低下していく点なのかを予測してきました。CGMSを用いることで実際の血糖値の流れが見える様になりました。食後のピークの血糖値をコントロールすることは、とても大切なことであると具体的に示して頂きました。ピークを抑える方法は超速効型を用いると考えがちですが、速効型を用いた方がピークを十分に抑えられる方もいて患者さま毎に使い分けることが大切であることを教えて頂きました。



午後の部1は「薬剤師にもよく分かるカーボカウント法」を徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターの黒田暁生先生にご講演頂きました。食品交換表とカーボカウントを利用することが出来ること、「脳内膵移植」を患者さんが持つことが必要で薬剤師もサポートできるようにすることが望まれると先生から学びました。先生自身が1型糖尿病でいろいろな食事と向き合いチャレンジして克服しようとする努力が患者さんを引きつける魅力の一つだと思いました。

午後の部2は「カーボカウントを用いた症例検討」を行い、黒田先生にコメントを頂きました。5つの症例に対して参加者から意見をもらいました。それぞれの参加者で考えるポイントが違い色々学ぶことが出来ました。最後に黒田先生にまとめて頂いてさらに抜けている部分などや考え方などを教えて頂きました。活発な意見があり有意義だったと思われまます。

最後にCGMは今後の利用度の拡大と利便性の拡充が必要であると感じました。血糖値を点で見るより流れを見るのがとても大切であることを教えて頂きました。カーボカウントでは特に1型糖尿病の患者さんが導入することでコントロールを良くする1つの方法であると教えて頂きました。薬剤師が血糖の流れを良くする秘訣を患者さんに教えることは重要であると学んで今後の活動に生かせるようにしていきたいと思ひます。

ご講演頂きました西村先生・黒田先生に深く御礼申し上げます。

研究会他のお知らせ

◆直接事業 ◆間接事業 □その他

◆第12回 西東京糖尿病療養指導士養成講座（※お申し込みが必要です。）

開催：平成23年9月8日（木）第1講開講 以降12月6日（火）まで計13回実施

時間：19:00～21:00（開場18:30）

会場：立川女性総合センター アイム 1階ホール（JR線「立川駅」下車 北口徒歩7分）

講義内容：「日本糖尿病療養指導ガイドブック 2011」に沿って行う。

受講料：13,000円

講義日程：9月：8日（木） 13日（火） 20日（火） 27日（火）

10月：6日（木） 13日（木） 18日（火）

11月：1日（火） 7日（月） 10日（木） 15日（火） 25日（木）

12月：6日（火）

参加資格：糖尿病療養指導に1年以上携わった経験のある方（自己申告で可。）

※LCDE認定者も受講可能ですが、未認定者を優先します。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1講義出席につき4単位

※但し、本講座受講による単位取得は40単位を上限とします。

テキスト：日本糖尿病療養指導士認定機構 編

「日本糖尿病療養指導ガイドブック 2011」を使用します。

（日本糖尿病療養指導士認定機構発行、(株)メディカルレビュー社発売2,625円）

※テキスト（2011版、5月中旬より発売中）は、開講日までに各自ご用意下さい。

申込方法：当会ホームページよりお申込みください。

※インターネットをご利用いただけない方は事務局（042-322-7468）までお問合せ下さい。



研究会他のお知らせ

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 第11回 TAMA生活習慣病フォーラム (※お申し込みが必要です。)

開催日：平成23年9月10日(土) 17:00~19:30

テーマ：「患者を知る足がかり ~糖尿病足病変 実践講座~」

場 所：調布市文化会館たづくり 12階 大会議場(京王線「調布駅」下車 南口徒歩3分)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位

参加費：500円

申込み：同封の申込用紙にご記入のうえFAXにてお申込み下さい。FAX：042-362-1602

□ 第27回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室 (※お申し込みは不要です。)

開催日：平成23年9月17日(土) 13:15~16:00

場 所：武蔵野スイングホール11階「レインボーサロン」(JR線「武蔵境駅」下車 北口徒歩2分)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

参加費：無料(どなたでも参加出来ます。)

◆ 第22回 武蔵野糖尿病医療連携の会 (※お申し込みは不要です。)

開催日：平成23年10月15日(土) 17:00~19:00

場 所：ザ・クレストホテル立川 4階「桜の間」(JR中央線「立川駅」下車 南口徒歩7分)

テーマ：「高齢化社会のインスリン治療~入口と出口を考える~」

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

★日医生涯教育制度：2単位申請中(カリキュラムコード 5.10.15.76)

参加費：医師 1,000円 医師以外 500円

□ 第12回 糖尿病予防講演会 (※お申し込みは不要です。)

期 日：平成23年10月29日(土) 14:00~17:35

場 所：前進座劇場(JR線・京王線「吉祥寺駅」下車 公園口徒歩12分)

テーマ：「糖尿病と上手につき合うコツ教えます」

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位

参加費：無料(どなたでも参加出来ます。) ※詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

◆ 第16回 糖尿病療養担当者のためのセミナー (※お申し込みが必要です。)

開催日：平成23年11月3日(木) 9:50~18:00

場 所：東京経済大学 国分寺キャンパス(JR線・西武線「国分寺駅」下車 南口徒歩12分)

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位

参加費：5,000円(弁当代含む)

申込み：同封の申込用紙にご記入のうえFAXにてお申込み下さい。FAX：03-5574-9970

事務局からのお知らせ

本会報誌「MANO a MANO」は、来月10月号をもって創刊100号となります。その記念すべき100号より、新コーナー「糖尿病療養指導Q&A(仮称)」が始まります。そこで、会員の皆様方より、糖尿病療養指導における悩みや質問をメールにて募集します。採用された方のご質問に当研究会の先生方が紙面にてお答えします。(※採用された方のお名前は公表されません。また直接メールにてご質問にお答えすることはありません。)

◎ご質問はこちらのメールアドレスへお願いします。(受付専用) ⇒ qanda@lagoon.ocn.ne.jp

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802号

TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478

<http://www.nishitokyo-dm.net> Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

